

様式 1

研究報告書（平成 27 年度）

提出者 一宮 真佐子

提出年月日 2016（平成 28）年 4 月 26 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 農業政策とポピュラーカルチャーに見る農業・農村イメージの分析

英文 The Images of Agriculture and Rural Area in Agricultural Policy and Popular Culture

【研究のねらいと目的】

これまで、主として行政およびポピュラーカルチャー（マンガ）における農業・農村表象の解明をテーマとしてきた。現在は研究蓄積の浅い後者を深める作業を中心としているが、表象を通じて「農村性 Rurality」を明らかにするというのが研究の大目的である。

農村性とはいわゆる「農村らしさ」であり、必ずしも現実の農村を直接表すだけでなく、農業や農村に対する外部からの期待や欲望が含まれている。こういった側面は、それらにまつわる表象を研究することでより鮮明に浮かび上がってくると考えられる。

また一方で、農業や農村地域、農家に対する蔑視も根強く存在する。農業従事者を示す「百姓」という呼称に関する問題だけでも、一時期、差別用語扱いをされ使用を控えなければならぬような状況があった。現在はそれに対する抵抗として積極的に名乗る人々もいるにしても、やはり農に対する蔑視の存在がはっきり示されている。

また、このことは近年の外国人労働者の問題にも関わっている。農業や水産業で日本人従事者の不足により外国人研修生や労働者が激増しており、待遇面の問題や事件も発生しているが、そこには外国人差別だけでなく、第一次産業に対する差別的意識が影響しているのではないだろうか。

現在、高度成長期後の日本社会において農業・農村に対する蔑視と賛美がどのような形で現れているのか、農業政策とポピュラーカルチャー（マンガ）を分析対象として博士論文を執筆中である。

農業・農村の表象については、単純に蔑視から賛美へという変遷ではなく常に両者が混在している。国内外の状況、時期によってその強弱が変化してきたという潮流と、政策と商業メディアとの相互関係についてまとめる。

【研究業績】 学会報告・論文など

【成果の概要】

① 日本国内で 1990 年代から 2000 年代にかけて実施された田園空間博物館事業（農業農村整備事業の中のひとつ）を中心に、農村イメージを重視した事業（農村環境や景観対策関連事業や重要文化的景観制度など）を含め、採択された地区での実施状況やその成果と地域イメージの形成に関する追加調査を行い、資料を収集し、博士論文の一部として執筆中である。

現在の研究や執筆中の博士論文については、第 4 回 KUASU 学際融合コロキウムにて発表を行った。学際融合コロキウムについては第 3 回の報告も担当した。

② 過去に行ったタイ・韓国の農村表象研究（GCOE ワーキングペーパーとして発表したもの）について追加の資料調査を行い、論文として現在執筆中である。

③ 農村や農業・農家への蔑視に関する先行研究と新聞・雑誌記事等の資料収集を進めた。

先行研究ではこれらについて後継者不足や結婚問題などをテーマとした著作・論文等で付随的に言及したものはあっても、そのものを研究課題としたものは現時点では見当たらない。職業差別に関する先行研究を見ても、農業や農家を取り上げたものは今のところ見つけられていない。

これに関連し、主に有機農業運動の関係者による著作等の中で、「百姓」という言葉について、ある時期に差別用語扱いされ、使用が自粛されていたとの記述がある。実際にそのようなことがあったのは自分でも体験しているが、学術的な検証はなされていないため、現在はこれを中心に、資料探索・収集を継続している。

【通信欄】